



国際河川メコンの人びとの暮らしと開発



メコン河とその流域は「未開の地」であり、「発展のために開発が必要」という文脈で語られることが少なくありません。一方で、人がこの地域で暮らし始めたころから今この瞬間に至るまで、河川と周辺環境は多くの人々の生活の場として利用されています。

今回は、メコン・ウォッチのスタッフとしてラオスを中心に活動されてきた東さんから、メコン流域に暮らす人びとの河との関わり、メコン河の開発が彼らの暮らしにどのような影響を与えてきたかについてお話していただきます。

●講師プロフィール

東智美（メコン・ウォッチ副代表理事）
東京都出身、一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了（社会学博士）。メコン地域の開発・環境問題の調査研究・政策提言に取り組む NGO メコン・ウォッチのスタッフとして、2006年10月～2014年2月までラオスに駐在し、住民参加型森林保全事業の実践や水力発電事業のモニタリングに関わった。オーストラリア留学、産休・育休を経て、現在は、東京をベースに、メコン・ウォッチのラオス・プログラムを担当している。主な著書『ラオス焼畑民の暮らしと土地政策：「森」と「農地」は分けられるのか』（風響社、2016年）。

【日時】

12月5日（月）14時30分～16時

【会場】

愛知県立大学長久手キャンパス・講堂

【対象】

学生、教職員、学外一般どなたでも

参加無料・申し込み不要
直接会場へお越しください

●問い合わせ先：愛知県立大学 研究支援・地域連携課

E-mail: renkei@bur.aichi-pu.ac.jp

TEL: 0561-76-8843

主催：愛知県立大学多文化共生研究所

共催：愛知県立大学地域連携センター